

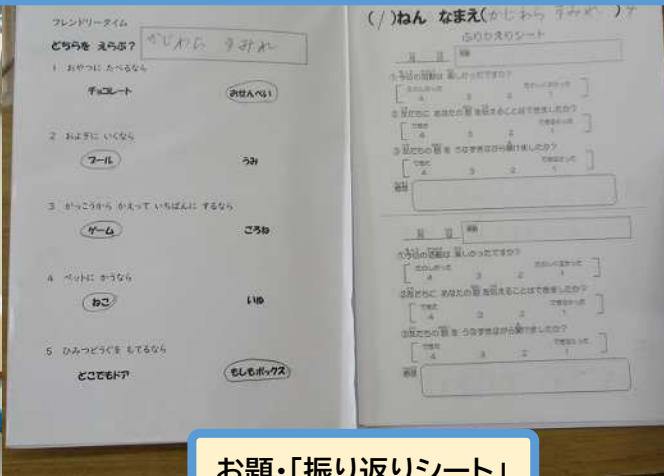
管内各小・中・義務教育学校において、いじめ・不登校の「未然防止」に向けた「短時間で継続的に行う『人間関係づくりプログラム』の推進」や「SC・SSW等の専門スタッフが参加した校内対策委員会の定期的開催」等、学校の組織的な取組が進められています。以下に、「2学期取組状況調査」から、「成果が表れている」と報告された取組事例を紹介します。自校のいじめ・不登校対策等の推進に向けた参考資料としてご活用ください。

1. 人間関係づくりプログラム等の実際

九重町立淮園小学校 「フレンドリータイム」



低学年フレンドリータイムの様子



お題・「振り返りシート」

九重町立飯田小学校 人権集会「どおなっつ」の取組

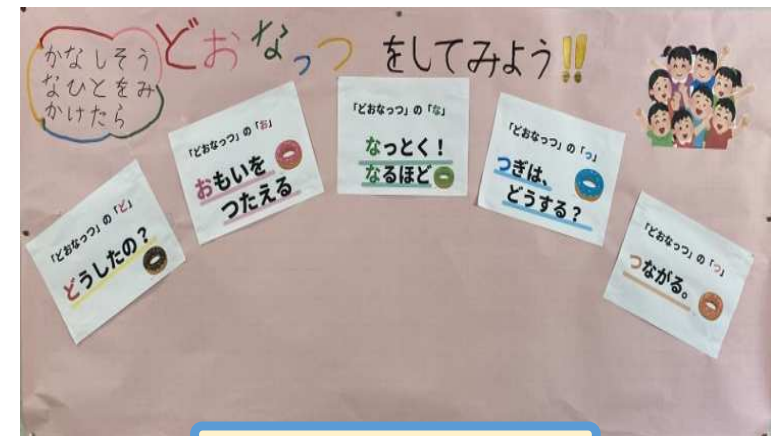


児童の人権・平和委員会が全校集会で発表



全校一斉フレンドリータイムの様子

人間関係づくりプログラム(フレンドリータイム)を毎週1回は位置づけ、低・高学年毎や全校一斉で実施することにより、定期的の実施することができた。その結果、2学期の「学校が楽しい」という児童アンケートの肯定率が、1学期同様に高い結果が出ており、フレンドリータイムを継続実施した成果が出ている。



発表資料の掲示及び共有

2. 「人間関係づくりプログラム」 成果

①子どもの姿(個)

- 友だちに関心を持つようになった。
➡友だちの良いところを見つけ伝える。
- トラブルの未然防止や自己解決につながっている。
- 自分のいいところ(成長)に気づく。
- 話す・聞くのスキルが上達した。
- 自分と他者との違いを個性として受け受け入れることができるようになってきた。

②集団の姿

- 児童・生徒質問紙「学校が楽しい」の肯定的評価が上がった。
- 学級の雰囲気(学校生活への充実感、学習への意欲等)がよくなってきた。
- 共感的人間関係が深まり、安心して自分の考えを周囲の人に伝えることができるようになった。
- 他者理解や絆が深まり、他者を尊重する心の醸成につながっている。

③教職員の姿

- 研修を行うことで、「人間関係づくりプログラム」の意義や内容の周知ができ、意図をもった取組ができた。
- 教職員が児童の「振り返り」を分析し、子どもたちを多面的に見ることができる資料として活用している。
- 児童の「振り返り」を児童間の交流だけでなく、通信等で保護者に紹介している。

3. 「SC・SSW等の専門スタッフが参加した校内対策委員会」 成果

①専門性の向上

- 心理と福祉の専門の視点から児童一人ひとりの状況を把握することができた。
- 学校ができるところと専門機関に任せるところの確認ができた。
- 個々の児童生徒に必要な支援が充実してきた。
- 保護者の思いや取り巻く状況についての情報を得ることができ、対応の手立てを考えることができた。

②効果的な対応

- 専門分野からの意見をもらうことができた。
 - ➡迅速かつ適切に対応
 - ➡児童生徒・保護者への働きかけ
- 各事案の解決へ向けて取組を進めることができた。
 - ・SCによる面談
 - ・SSWによる家庭訪問
 - ・情報共有や共通理解及び組織的対応
 - ・各関係機関への連絡 等